

## エリファズの叱咤激励 (1~6 節)

### \_\_\_\_\_ : エリファズの主張 (7~11 節)

ヨブ記4:7 さあ、思い出せ。だれか、潔白なのに滅びた者があるか。どこに、真っ直ぐなのに絶たれた者があるか。8 私の見てきたところでは、不法を耕して害悪を蒔く者が、自らそれらを刈り取るのだ。

- 原因があるから結果がある!

不幸には必ず原因がある。罪を犯した者が不幸を報いとして受けるのだと、いわゆる因果応報の法則を一般的に述べる。因果応報という考え方は、日本だけでなく、古今東西を問わず、広く受け入れられてきた考え方である。それはある意味で神のさばきの原則に一致している(ロマ2:6-11)。しかし、すべての場合に当てはまるとは限らない。少なくともヨブの場合には当てはまらない。(実用聖書注解)

ローマ書2:6 神は、一人ひとり、その人の行いに応じて報いられます。

ルカ13:4 また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも多く、罪の負債があったと思いますか。

## エリファズの神秘体験 (12~16)

〈霊〉(15) 〈へ)ルーアハは、普通は目に見えない存在だが、ここでは姿を持っている。だから聖書的な意味での霊というよりは幽霊のような存在を指している。幻は必ずしも神の啓示とは限らない。(新実用聖書注解)

## 神は罪人を滅ぼされる (17~21 節)

### 悪人の末路 (5章1~7 節)

人は神の前に正しくあり得ないから、神に打ち砕かれても当然である。それなのにヨブは神の取り扱いに対し、愚痴を言う。それなら御使いにでも誰にでも自分の正しさを訴えてみよ。神の正しいさばきを受け入れず、抗議するような者は神にのろわれ、滅ぼされてしまうだろうとエリファズは言う。(実用聖書注解)

ヨブ記5:3 神に背く者は、しばらくは栄えても、思いもよらない災いにみまわれる。リビングバイブル

4 その子たちは安全からはほど遠く、門で押しつぶされても、救い出す者もない。

ヨブにふりかかった災難について再び触れています。ヨブは根をはって繁栄したが、その家はたちまち腐ってしまった。息子が押しつぶされ、救い出されることはなかったということです。(ロゴスミニストリー)

ヨブ記5:6 まことに、不幸はちりから出て来ることはなく、労苦は土から生え出ることはない。

- 不幸・労苦は土から自然と生え出てくるものではなく、種を蒔いたからだ。

ヨブ記5:7 火種から勢いよく炎が吹き上げるように、人は罪と不幸に向かってまっしぐらに進むのだ。リビングバイブル

悪者が苦しみを味わうのだが、人は神の前に正しくあり得ないので、結局すべての人が苦しみを味わうということなのだろう。(実用聖書注解)

### 神の大いなる支配: 敬虔な者の幸い (5:8~16 節)

この箇所では、エリファズは、悲しむ者や貧しいものを引き上げて下さる神に、己をゆだねるようにと勧める。(新聖書注解、p.51)

- 神についての真理: エリファズが語ったことは、確かにその通りだが、その逆は、必ずしもヨブには当てはまらない。

### 神の懲らしめを受ける者の幸い (17~27 節)

エリファズは今述べた神の慈しみ深いみわざを根拠に、神は傷つけるがいやして下さる方だから、神の懲らしめを謙虚に受け入れるように、そうすれば必ず苦しみから救い出されると勧め、その場合の祝福を数え上げる。(実用聖書注解)

### レッスン① \_\_\_\_\_ いけません

マタイ7:1 さばいてはいけません。自分がさばかれないためです。2 あなたがたは、自分がさばく、そのさばきでさばかれ、自分が量るその秤で量り与えられるのです。

エリファズの主張は、ヨブとの関係を抜きにして、それだけを見れば、申し分なく立派な教義であることが少なくない。(新聖書注解、p.51)

- 心の中にある種の思い込みがある時、自分自身がそれに気づいていないことが多い。主イエスはそれを「目の中の梁」と言われた。

マタイ7:3 あなたは、兄弟の目にあるちりは見えるのに、自分の目にある梁には、なぜ気がつかないのですか。…

### レッスン② 因果応報と \_\_\_\_\_

ヨブ記4:8 私の見てきたところでは、不法を耕して害悪を蒔く者が、自らそれらを刈り取るのだ。

- 因果応報は行いによる救いの世界。しかし福音は恵みの世界だ。

ローマ書6:23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

- 私たちも神から救いの「賜物」を受けた罪人として、他者に対して恵み深い者でありたい。罪を責め立てる者(サタンのように)のようではなく。